

会議録

会議の名称	平成28年度第2回西東京市子ども子育て審議会専門部会
開催日時	平成28年10月26日（水曜日）19時から21時まで
開催場所	西東京市役所2階 202・203会議室
出席者	委員：谷川専門部会長、古川副会長、網干委員、小松委員、武田委員、中尾委員、浜名委員、福田委員、吉野委員 事務局：子育て支援部長 保谷、子育て支援課長 飯島、保育課長 遠藤、保育課主幹 岡田、児童青少年課長 齋藤、子ども家庭支援センター長 日下部、子供家庭支援センター長補佐 金谷、子育て支援課調整係 栗林、田中、留目、保育課事業調整係 海老澤、大庭、里、保育課保育係 古川、本庄 欠席者：井上委員
議題	1 審議 (1) 小規模保育事業施設及び事業所内保育事業施設の利用定員について (2) 地域型保育事業について 2 その他
会議資料の名称	資料（席上配布） 資料1 家庭的保育事業等の認可について 資料2-1 連携施設確保に関する保護者アンケート調査集計（選択式部分） 資料2-2 連携施設確保に関する保護者アンケート調査集計（記述式部分） 資料3 連携施設確保に関する事業者意向調査集計 資料4 家庭的保育事業等における連携施設に関する調査（認可保育園・幼稚園用）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 審議</p> <p>(1) 小規模保育事業施設及び事業所内保育事業施設の利用定員について (事務局から資料1について説明)</p> <p>○谷川部会長： お気づきの点があれば、出していきたい。</p> <p>○浜名委員： 各施設の預かり時間をお尋ねしたい。また、保育従事者の申請人数が認可基準ギリギリ場合、運営開始後に職員が休んだときには保育者が足りるのか。</p> <p>○事務局： 南町pocapocaは、開所時間が8時～19時、標準時間認定の保育時間が8時～19時、短時間認定の保育時間が9時～17時で延長時間が8時～9時と17時～19時。 わんわん2ndは、開所時間が7時～19時、標準時間認定の保育時間が7時～18時で延長時間が18時～19時、短時間認定の保育時間が8時30分～16時30分で延長時間が7時から8時30分と16時30分から19時。 柳橋わかくさは、開所時間が7時～19時、標準時間認定の保育時間が7時～18時で延長</p>	

時間が18時1分から19時、短時間認定の保育時間が8時30分～16時30分で、延長保育の時間は今後調整することになっている。

○谷川部会長：

今回は保育士の人数が施設によってとても差があるので疑義を持つ。

○事務局：

雇用される保育士が常勤か非常勤かによって人数の差が出てくることもある。保育時間中は基準に則った保育士の数を下回ることが絶対ないようにシフトを組んでもらう。

○谷川部会長：

基準人数ちょうどの施設は職員が休みのときはどういう体制を取っているのか。保育施設の連携の議題でも、保育士が急に休んだ場合のバックアップ体制等の話が出るかと思う。のちの議論で深めていきたい。

○武田委員：

先日保連協の要望書の中に、近年開設された小規模保育室について、短期間で施設長が替わるという記述があって気になった。今回は施設長が決まっていない施設がある。現在保育士の確保は非常に厳しい状況で、小さな事業者の人的配置と保育の質の確保はあわせて気になるところである。

○事務局：

開所日までにきちんと配置をしてもらうことになっている。

○谷川部会長：

市としてそこはしっかり確認していただきたい。

○事務局：

施設の確認作業は必ず市で行うし、開設前に施設長と保育士が揃っていなければ開設できない。保育課には保育園長経験者が支援員として在籍していて、1年間に複数回施設をまわり指導・相談を行うほか、新規開設園は4、5月頃に出向いて確認している。南町pocapocaの事業者は近くに既存の保育施設があり、万が一の時にはそちらから応援に入ると事前に聞いている。

○網干委員：

最低限の人数でシフトがまわるのかという点、全ての施設に屋外遊技場がなく代替遊技場であるという点、柳橋わかくさは施設長の保育経験年数が4年8ヶ月しかない点が心配だ。

○武田委員：

柳橋わかくさは敷地の中で連携するから、保育の質もしっかり維持しながらやっつけられるだろう。保護者の皆さんの心配が悪い方に作用して、保育園全体のイメージが悪い方に広がるのが一番よくない。何らか応援してしっかりとできるといい。

○谷川部会長：

よくないことが1件でも起これば全体に影響するし、子どもの命に関わる危険なことは決してあってはいけない。お互いに支えあうことと、市の巡回等も小規模施設が増えていくほどしっかりとやっていただきたい。時間帯も昼間だけではなく、朝・夜も行くといいのかもしれない。

○小松委員：

南町pocapocaは8時からということだが、預ける側の需要は8時からで十分なのか。

○事務局：

審査の際に7時開所ができないか打診したが、事業者としては近くに持つ既存施設の開所時間と合わせて8時にしたいということだった。今後ニーズをみながら検討するという話もいただいている。

○谷川部会長：

次回から、開所時間を資料の表の中に入れていただけるといい。

○浜名委員：

0歳児は入所時の月齢の定めはあるのか。

○事務局：

南町pocapocaは4ヶ月から。わんわん2ndと柳橋わかくさは5ヶ月からになる。

○谷川部会長：

ほかにご意見がなければ、今日の3園については概ね以上が意見ということにする。資料の項目の追加については次回からお願いしたい。

(2) 地域型保育事業について

(資料2-1、2-2、3、4について、事務局から説明)

○事務局：

保護者アンケートの結果から、共働きで子育てをする状況にあっては、幼稚園の保育時間では預かり保育を利用しても時間的・金銭的に難しく、保育園に預けざるを得ないと考えている保護者が多いと推測できる。また、幼児教育・保育の内容を重視したいと考えている保護者も少なくはないとも考えられる。皆様のご意見を伺いたい。

事業者アンケートからは、各事業者が必要だと思っていることとその頻度や課題の把握ができたので、この調査結果をもとに連携する側となる認可保育園や幼稚園に対して、資料4をもって調査を行いたい。

○谷川部会長：

まず保護者アンケートで気づいたことから伺いたい。ベースとして回答者は認可保育所入所希望がかなわなかった方がかなりの割合でいると思った方がいいかと思う。

○網干委員：

幼稚園側から見ると予想通りの結果ではある。これからは、働くこと中心ではなく、行事参加や子育てと仕事の両立ということを考えるべき時期に来ていると思っている。2割程度の人たちは幼稚園を希望する気持ちがあるということもわかった。金銭的には幼稚園と保育園とは保育料・補助金に格差がある。そこを変えていってほしい。時間的には幼稚園も行事等の日以外は預かり保育を含め11時間開所している園も増えてきている状況を伝えていきたい。幼稚園では、行事は家族で参加して、帰って家庭でその日の話をする事で完結すると考えている。今後の女性の社会進出を考えると、そういう日に仕事を休むということをワークシェアリングや短時間勤務とあわせて企業にも考えてほしい。そういうことをどう伝えていくのか、幼稚園側も考えるべきだと思った。

○谷川部会長：

子どものための施設、親のための施設、両面あると思う。理念のようなものがもっと共有されやすい世の中になるといいのかもしれない。

○網干委員：

父親が朝の送りに来たり遠足についてきたり、子育てに関わろうとする時代になってきている。保護者の生活を見ていると、自分たちの子育てを自分たちで考えて選べるというメッセージができる雰囲気が出てきたのかなと思う。

○谷川部会長：

そういう施設を選べる人たちがいる一方で、認可保育園のサービスでないと難しいという方も絶対数いる。住み分けができていければいい。

○古川委員：

アンケートの中で幼稚園に対して「全幼稚園の預かり時間の統一や自施設内給食を徹底して保育をできる状況を作ってから論じていただきたい」とあるが、幼稚園と保育園では補助金等の出所や金額がまったく違うのだから無理がある。その土台が一緒になるなら幼稚園を希望する保護者も沢山いるんだと思う。保育園を希望する1番の理由は長い預かり時間であり、幼稚園の預かり保育を利用すると金銭的な負担が大きくなってしまふ。これは子どもの公平ということで考えると、不公平な状況だ。

働いているか否かではなく、どういうところで子どもを育てたいかという選択の自由が、本当の意味で平等であるべきで、どんな施設を利用していても、または施設を利用していなくても、全ての子どもには同じような援助をするべきだと思う。

○網干委員：

預かり保育で1番困っているのは、部屋が足りていないことだ。保育園を建てる場合には補助金が出るが、幼稚園が保育室を整備してきちんと預かり保育をしようとしても補助金は出ない。部屋を増設したくても幼稚園には金銭的余裕がない。

○浜名委員：

幼稚園は夕方何時ごろまでやっているのか。

○網干委員：

今は17時半から18時というところが多く、長いところは18時半までやっている。夏休み・冬休み・春休みも、わたしの園は就労証明を出していただければ7時半から18時半まで預かっている。証明がなくても普段の教育時間である8時40分～14時は預かるようにしている。

○古川委員：

預かり保育をやっているといっても早く終わってしまうイメージがいまだにずっと強い。補助金的には、建物にも給食にも預かり保育に対しても補助がほとんど出てない。困っているところには手を差し伸べたいし連携もしたい気持ちはあるが、実際にそれをひとつの園でやっていくにはとても難しい状態であるということを、私立幼稚園としてもしっかり伝えていく必要があると思う。

○谷川部会長：

昨年度、認可保育所の利用料の見直しの際に、来保護者が支払っている額が本来負担すべき金額の半分程度に規定されているということで、保育園には作る段階でも運営でも補助金があって、さらに利用料も全額は負担しなくていいということでは幼稚園と勝負にならないから是正していくという点と、一方で生活が厳しい方へのやさしい視点も必ず必要であるという点は共有できていると思う。

○網干委員：

働くことがいいこととだけ受け取れるような風潮の中で、幼稚園の保護者は自分たちも働かなくてはいけないのかと戸惑っている。保育園に流れているお金を全体の保育に使うようになれば、自分が働く時間と子育てを考える機会をもてるようにできると思う。その結果幼稚園を選ぶか、保育園を選ぶか、自宅保育を選ぶかは、情報を与えれば、保護者がきっちり考えると思う。

○谷川部会長：

わかりやすい情報提供が必要ということは1つあると思う。情報がしっかり伝わっていればこういう考え方は出なかつただろうと思うもの自由記述も散見される。

○武田委員：

そもそも保育園と幼稚園の社会的役割は違う。保育園に預けながら働いている方は、様々な理由でそうせざるを得ない。保育園はそういう人たちを支えていくための施設である。一方で、短時間で子どものことを優先しながら社会貢献を果たしていこうという方で成り立っているのが幼稚園だと思う。そこを押さえた上で、少しずつ整理しながら行かないと、預けている人の肩身がどんどん狭くなっていく。

ここ数年、第1子の出産が40歳を過ぎている方が非常に多くなっている。出産にまつわるトラブルもいろいろあったり、職場の中でも重責を担ったりしていることが想定されるので、子育て支援のあり方は若い人への支援とはまた違う意味を持ってくる。

子どもを育てていくための手立てと保護者をどう支援していくかという視点の2つがしっかりしていないと、いろいろな悲劇的な問題も起きてくるだろうと懸念する。

単純な議論だけにはしたくないということをあらためて感じている。

○網干委員：

子育てが遅くなっているとか、働きたいという人たちの支援も必要だ。一方で、若いうちに子育てをしようとか2人目・3人目を産んでみたいという人にどうしたら産んでもらえるのか。働いている人たちへの支援によって3人以上産む人を増やすのは至難の業だ。働いている人にも、お金がない人にも、子どもをたくさん産んでいく人にもきちんと支援をしていくようにして、保育の多様性も認めていく。保護者も自分にあった生活や保育施設を選んだり、支援を受けられたりするように変わってほしい。

○武田委員：

保育園に預けている人たちもきょうだいは実に多い。少子化というのはもう少し違うところに原因はあるんだろうと思う。

○古川委員：

働いていなくて肩身が狭いという方が結構いるが、そういうふうに思わせているのはおかしい。ちゃんと子どもと向かい合って子育てをしている。子どもを育てるのは素晴らしいことだという原点を、行政サイドでもう少しアピールしていただきたい。

○網干委員：

保育園と同じ保育時間・保育内容という枠で固められていってしまうと、無理だと考える幼稚園が多くなると思う。多様性を認めていけば、連携施設も考えやすくなる。

○谷川部会長：

そもそも保育園と幼稚園は違うものだけど、今保育が非常に不足しているので、幼稚園に受け皿になってもらおうとしている。本来ならニーズが違うものを近寄せようとしているからいろんな弊害も出る。幼稚園に預けてお仕事をしていない方も、保育園に預けてずっと仕事をしている方も、どちらも居心地の悪さを感じている気がする。正しく情報を伝え整理することで、自分にあった子育てを選べるようになると思う。

○吉野委員：

アンケートの回答であまり子どものことが触れられていないのは非常に残念だ。役員をやりたいとか、夏休みはどうするんだとか、仕出し弁当はどうだとかで、子どものことはどこにいつているんだろうと思った。

他市では認証保育所も、認可保育園も、幼稚園も一堂に会していろいろなブースがあるような、子どもまつりみたいなものを行っているというのを聞いた。保護者の方も幼稚園と保育園と小規模保育事業と認証保育所と、よく分からなくなっているところがある。お金をかけずに伝える創意工夫も必要ではないか。

○古川委員：

現場は一生懸命それぞれの役割を担ってやっていく。市はその多様性を保護者にわかっていただく工夫をしていただきたい。

○吉野委員：

保育園の入園案内も、保育園と小規模で冊子を別々にするのではなくて、西東京市の子育て施設の案内のようにつくれたらいい。幼稚園などは紙一枚しか入っていない。これではあまりにも不利だ。

○谷川部会長：

そのあたりは今後工夫していけることだと思う。フローチャートで、何時まで預けたいかとか、これが必要かとかをやっていくと、実は自分の選択肢に幼稚園も入ってくるとか、そういうことがわかる。

○事務局：

今回は保育園の入園のしおりになっているので、そういう形になっている。

○古川委員：

一緒に論じたいなら、こういう冊子も一緒にするべきだ。

○小松委員：

連携する内容もいろいろあって、施設だけの連携もあれば、人が必要な連携や交流もあると思う。いろいろな視点で見て、長続きできるものから選んでスタートするのがいいと思う。私の子どもが通っている幼稚園は、いきなりプールを壊して保育施設を作る説明会があった。保育園のニーズがあるのはわかるが、なぜ幼稚園の施設を壊さなければならないのか。幼稚園教諭の力とか園庭・ホールとか利用したくて敷地内に保育園を作りたかったんだと思う。どちらかに大きなデメリットがあってどっちなだけメリットがあるのではなくて、相互にメリットがあるような連携を考えていきたい。

○谷川部会長：

資料3に話を移したい。どちらか一方に負担がかかるような連携は続かないと思う。できることから始めて、お互いが学び合えるような連携ができるといい。3歳以降の受け皿というのを直接的にやるだけではなく、あげられた項目をやっていくことで受け皿になりえることもあるかと思う。

○網干委員：

健康診断の合同実施はできないことはないと思うが、お金の問題が出てくる。保育園と幼稚園では園医に対する補助金が全然違う。そういうことを解決してくれれば幼稚園でも考えられる。一時避難場所も、必要なものを市で用意するとかであればできる。幼稚園は今のところ一時避難場所の指定もない。

○谷川部会長：

この一時避難場所は、広域災害ではなくその小規模に何かが起こったときのことだと思う。

○網干委員：

そういう場合は、幼稚園としては今でも受入れるつもりでいる。

○谷川部会長：

それも、自然に任せておくのではなく、すぐに対応できるようにあらかじめ決めておくということになるのだと思う。

○吉野委員：

わたしの認証保育所では、今現在も、夏にプールをお借りしたり、焼き芋大会・夏祭り等、認可保育園の先生からご連絡をいただいて、行事に参加させてもらったりしている。先生方の負担がこれ以上大きくなると大変ではないかと、逆に心配になる。

○谷川部会長：

今は善意で行われていることを制度化するためには、費用面の担保とか市の応援の整理が必要なんだと思う。

○古川委員：

幼稚園でも受入れられるような費用負担が公平に行われれば、どこでもいけると思う。

○網干委員：

幼稚園経営者が感じているのは、受け入れのときのお金ではない。保育園と幼稚園とで格差があるような気がしているから、腑に落ちない。

○谷川部会長：

そもそも幼稚園は利用者が園に申し込んで園と契約する。認可保育所は市が一括して点数をつけてやっている。そういう点で公的なものかどうかというのは違うわけで、そこは一足飛びに一緒にはできない。連携はひとつの入口だと思う。公的資金の投入のされ方を見直してほしいということも勿論だが、連携をやるならやりやすいように仕組みを整えてほしいということも、どっちもやらないといけないと思う。

○網干委員：

お金のことに話がいくと連携は進まない。できることをやるというのは賛成だ。

○谷川部会長：

善意でやるのではなく、連携する双方がお互いの役割としてやっていくことなので、それなりに条件整備が必要なんだと思う。

○古川委員：

保育士と幼稚園教諭との合同勉強会とかも、連携の一步につながると思う。

○武田委員：

お金のかからないところでやれるところもたくさんあると思う。園庭開放のようなかたちで遊びに来ることは一向に構わないし、構えて連携するというよりは、近くの園と日ごろから顔見知りになって行き来していれば、そんなに垣根は高くないと思う。それ

から先は、それぞれの園同士が勉強会等も合同でやって、できるところから考えていくということがはじまれば、困ったときの助け合いはできると思う。気楽に始められるところから始めたらどうか。土曜日に保育を受けるとか職員が何かのときに応援に行くかは、地域の中の保育園で連携するというよりは、市の保育士がいるところで応援にってもらおうようなところで考えてばどうか。

○谷川部会長：

施設の開放は、いい意見、安全性を心配する意見、両面あるのかなと思う。ある程度のルール化が必要だし、違う園に所属している子供同士が混ざって遊ぶので、事故や怪我のときの難しさもある。

○武田委員：

どちらの園の責任になるかという問題があるだろうが、それは、遊びにいった先に地域の子供が来ていてトラブルが起きることもある。それぞれの管理責任はあるのを承知の上でやろうとしているのだから、あまり先に心配しても仕方ないのではないか。

○浜名委員：

先ほど冒頭に審査した施設はみんな規模が小さいし園長も若い。ある程度の経験とか大きさがあるところが連携先になってフォローするというのもひとつの視野には入れていかないといけないのかなと思う。

○谷川部会長：

子どもの環境の変化をなだらかにしてあげるという点では、3歳でほかの施設に移っていく先の施設と連携をしておけば、先生も顔見知りになるし、受け入れる側もどんな子かわかるので非常にやりやすいこともある。

○浜名委員：

連携は皆さんいろいろな考えがあるから、誰が音頭を取ってやっていくのかというのが難しいことだと思う。

○網干委員：

やっぱり園庭のことが引かかる。わたしたちは自分たちで努力して用意しているのに、屋外遊戯用を用意していない保育室が園庭に遊ばせに来るとなると、心の中がすっきりしない。保育の連携をして、そこを出た子がうちの幼稚園にくるようにしていくなら納得できると思う。

○谷川部会長：

そういう経営的なことが関わるからこそ、市は、次に連携を提供すると想定される側に調査をしたいと思っているのだと思う。

○浜名委員：

甘えられる一方では受入れがたいというのは理解できる。ウィンウィンの関係にしないといけないだろう。

○古川委員：

他市では保育士と幼稚園とで特別支援に関する合同研修会をやっていて、年に何度も顔を合わすのでそこで交流できる。保育士同士等の自然な交流の中でできることについて話が広がっていくこともあると思う。

○谷川部会長：

善意だけに支えられているのは制度として厳しくなっている。ただいきなりどの園がどの園を助けると定めても無理なことなので、日々顔見知りになるところで、お互い学びあったり、わかることも沢山あるかと思う。

次に、連携をしようとする側に行うアンケートだが、ほとんどが自由記述になっているので、答えるのが大変そうかなと思う。

○吉野委員：

現場では保育士は研修も行けないくらい日々忙しい。そこも考慮していただきたい。小規模の保育士も大きい保育園に行くのはものすごく気を使うし、受入れる側の保育士も大変だと思うので、なるべく現場の保育士の負担にならないようにしてほしい。

○小松委員：

ある程度チェックで回答できるようにできないか。

○網干委員：

いきなり、頻度・範囲・量、といわれるとむずかしい。できるか・できないか、それ以外にどういうことが考えられるか、程度ならいい。

○谷川部会長：

資料4にはQ1がついているが、Q2以降も同じ紙を書くことになるのか。

○事務局：

資料4の1枚目にある①～⑧を、質問とすることを考えている。

○谷川部会長：

ちょっとボリュームが多い気はする。これは、紙で答えてもらうのではなくて、あらかじめ送っておいた上で市がヒアリングに行くのは難しいのか。

○事務局：

市の方では対応しきれない。

○網干委員：

各園に聞きに行くのでなくても、私立幼稚園なら幼稚園の園長会1箇所に行くだけでもいいのではないか。

○古川委員：

このアンケートはやらざるを得ないのか。

○谷川部会長：

国がやれといっているのではなく、市が、利用者・小規模事業者の意見は聞いたので、今度は受け入れ側に聞くという提案だと思う。

審議会でこの資料を使って考えていくことになると思うので、書いたらやらされるんじゃないかとか、そういう考えにさえぎられないで書かれた意見がほしい。

○武田委員：

応援してあげたいという気持ちはあるが、実際にできるかどうかを考えていくと、無責任な答えはできないし、常にパーフェクトな体制ではないから、日によっていろいろあるとなると答えきれない。

○網干委員：

今の状態では、人員に余裕もないし、できないと回答すると思う。この条件ならできるとかできないといった話はできるが、書けといわれると難しい。

○谷川部会長：

アンケートをやるに当たって園長会議に説明には行くのか。

○事務局：

説明をする予定はしている。

○谷川部会長：

誘導するような設問はよくないが、記述式だけではなくチェックにするとか、例を書くとか、少し工夫をしてもらって、しっかり説明もしてもらいたい。おそらくそのまま配ると、たいした答えが出てこない。本当は聞けばもっと出てくるものが、引き出せないということがあるんじゃないかと思う。

○事務局：

項目出しもなかなか難しいところがあるので、自由回答で書いていただいた方が、いろんなご意見が出るかと感じて、こういう形にした。

○網干委員：

自由回答は一人ではなかなか考えつかないと思う。

○谷川部会長：

説明会はいつなのか。

○事務局：

保育園のほうは11月2日に予定している。幼稚園は11月中旬に園長会がある。

○事務局：

今ご提案のあった形を検討する。各園には園長会の際に説明をさせていただいて、紙で出して負担のない形を考えたい。

○谷川部会長：

回答が返ってきたときに趣旨が通ってないせいでちょっと回答が違うと思うようなことがあれば、是非個別に対応をしていただきたい。

では、市には再度内容を検討していただいて、説明会でも説明をしていただき、そこでも少し自由にご意見を出していただいた上で、正しく趣旨が伝わって調査ができるようお願いしたい。

2 その他

○事務局：

審議会は11月18日(金)午後7時から、イングビル3階第1・第2会議室にて開催する。

専門部会は、前回、第3回を1月25日午前10時でご案内をしたが、今回アンケートをもうひとつ実施することにした関係から、12月に1回、12月21日(水)午後7時から開催したい。場所は追ってご連絡をさせていただく。

○谷川部会長：

提供する側へのアンケートは、もしご意見があれば事務局に寄せていただきたい。市がアンケートを修正したら委員に流してもらって、もしそれにご意見があればすぐにまた市に意見をかえすこと。

閉会